

◆人体の名称や構造を理解しよう

| |
|---|
| 1 対象児童生徒（対象学級）の実態 <ul style="list-style-type: none">・専攻科理療科 5名 弱視 |
| 2 指導目標 <ul style="list-style-type: none">・文字や模型図を拡大して人体の名称や構造を理解する。・iPad の利点を生かし、構造を立体的にとらえる。・解剖図譜の代わりとして使用し、学習活動の効率アップを図る。 |
| 3 取組の中心となる教科・領域等 <ul style="list-style-type: none">・人体の構造と機能(解剖学) |
| 4 使用したアプリ、周辺機器 <ul style="list-style-type: none">・らくらく解剖学(骨)・らくらく解剖学(筋) |
| 5 指導の経過及び児童生徒の変容 <ul style="list-style-type: none">・指導期間 平成25年6月18日～平成26年1月29日・指導経過 iPad の操作に慣れることからはじめ、カメラ機能を使って、文字や図を拡大して見るようにした。 iPad の操作に慣れたところで、3D映像を見て感じたことを発表したり、質問に対して答えたりするようにした。 授業で習った骨格に関する事項を、iPad で4択の問題にして答えるようにした。 |
| 6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等） <ul style="list-style-type: none">・教師が事前にアプリの操作法を理解して、同時進行できるようにすることで円滑に授業を行うことができる。・解剖学の知識がついた時点で再度タブレットを利用したが操作がスムーズになり、円滑に操作できるようになった。・画面が大きい iPad は、弱視の生徒が使う上で便利である。・ボイスオーバー機能を使って筋の名称から筋肉を検索することができるようになった。 |